



Susap2019spring

浙江理工大学プログラム

浙江理工大学プログラム

参加者プロフィール



近藤 泰成
経済学部経済学科 2 年

中国の友人を持ち、関わって行くにつれて中国に興味や関心を抱き、昨年の夏に上海旅行へ行き、その際に親切的な中国人像を感じ、強く興味を持ったため当プログラムへの参加を希望。



橋本 祐樹（副団長）
農学部応用生物科学科 3 年

日本と馴染み深い中国の実際の姿を見たいという気持ちでこのプログラムに参加しました。1 ヶ月という期間で中国の生活を楽しみながら、自分のステップアップにつながればと思います。



入交 香帆
経済学部経済学科 2 年

実際に中国へ行って、中国を学びたい、生の中国語に触れたいと思い、参加を希望した。また、モバイル決済にも興味を持っていたため、実際に使ってみたいと思った。



田中友梨香
経済学部経済学科 2 年

海外に興味があり、留学したいと思っていたので参加した。また、中国が急速に発展して行く中で、中国での生活を実際に体験したいと思い参加した。



高木 涼夏

経済学部経済法学科 2 年

中国の進んだ技術を体験してみたいというのがこのプログラム参加の理由。中国で食べた餅の味が未だに忘れられない。



田中 彩友里

農学部生物環境科学科 2 年

以前から留学に興味があり、今回短期留学に参加した。中国語はゼロからのスタートだがこれからの成長に期待する。

プログラム概要

【期間】2019 年 3 月 2 日～3 月 30 日（29 日間）

【留学先】浙江理工大校

浙江省杭州市杭州下沙高教園区 2 号大街
928 号

【内容】週に約 20 時間の中国語の授業があり、実践的に中国語の実力を上達させるプログラムとなっている。また、佐賀大生 1 人につき、2～3 名の元佐賀大留学生やバディがいる。彼らと交流し、現地の人々とのコミュニケーションを通じて中国文化や社会について知り、理解を深めることが出来る。

浙江理工大学について

浙江理工大学は浙江省杭州市中心部からバスで東に小一時間離れた開発区に位置する。周囲には杭州市内各大学の新キャンパスがある。理学、材料・紡織学、服装学、情報学、機械・自動制御学、建築工学、生命科学、経済管理学、アートデザイン学、法律・政治学、外国語、新聞・メディア学、マルクス主義学、国際教育学、継続教育学など希な学部を持った総合大学である。また、アジア・アフリカ・欧州・北アメリカなどの 60 カ国や地域からのあらゆるタイプ・レベルの留学生を受け入れています。

授業

授業は、月曜日から金曜日の週 5 日、1 限が 8:10 から始まり、1 コマ 90 分授業であるが、45 分間授業をした後、5 分間休憩を挟んで、45 分間授業が続きます。全員が初級クラスを受講。発音や簡体字など基礎的な部分を中心に習った。初級クラスの編成は、1 クラス 30 人程度で、留学生

先生方はとても優しく、一人一人が上達するように丁寧に教えてくださった。中国語を初めて勉強する者は、最初の授業で、発音の違いを理解する事が難しく、発音を習得する事に苦戦した。しかし、1ヶ月が経つにつれて、簡単な中国語は聞き取る事が出来、授業の成果を実感した。

このプログラムでは一人につき二人から三人の中国人バディが付き添った。中国人バディは、日本語学科の学生のため日本語が流暢であった。そのため、会話は全て日本語だった。バディとは学食に一緒に行ったり、休日はショッピングセンターや西湖、動物園などに連れて行ったりしてくれた。また、日本語学科の生徒が受ける日本語の授業に参加させてもらった。内容は、日本の昔話の朗読だった。中国人学生の勉強に熱心な姿を見ることが出来た。

寮は、管理人さんが常駐していて、トラブルが起きた場合は、助けてくださった。部屋は、1～2人部屋で、冷蔵庫、エアコン、wifi、机、ベッド、クローゼットが備え付けられていた。また、シャワーとトイレが一緒になっていて、トイレにトイレットペーパーを流す事は出来なかった。また、ドライヤーは、日本と電圧が違ったため、使用する事が出来なかった。洗濯機、乾燥機は、共同の物で、支払いは、モバイル決済だった。

1. 交通手段

交通手段は主に、徒歩、地下鉄、バス、タクシーである。徒歩については、多い日で2万歩以上も歩く事もあった。地下鉄は、安くて2元、本数が多く、待ち時間が少なく乗る事が出来た。ラッシュ時は、中国人の人口が多いものあり、乗車す

るのに一苦労した。バスは、乗車時に 2 元を入れ、その値段でどこまでも乗る事が出来る。タクシーは、バデイと一緒に使ったが、中国語が話せないと厳しいように感じた。

2. 物価

自分たちの生活圏での物価について説明する。

学食	10～15 元
スーパーのパン	3.5 元
レストラン	50 元
ソフトクリーム	3 元
マスク	6 元
ポケットティッシュ	9 元
お菓子	約 7 元
水	2 元

4. 食事

学食は、中国料理が主で、韓国料理、台湾料理もあり、メニューは豊富であった。中国料理独特の香辛料の味に苦戦する者もいたが、食べ続ける事で、慣れ、美味しく感じるようになった。外食は、四川料理、広東料理、東北料理、上海料理、杭州料理、など様々な中国料理を食べることが出来た。人数が多いと円卓を利用した。学生のほとんどが寮生活だが、寮にはキッチンが無いため、学食や外食を主に利用しており、飲食店が非常に多い印象であった。

「外国での生活で得たもの、気づいたこと」

経済学部 2 年 近藤泰成

私は三月の間、中国の杭州にある浙江理工大学で短期留学へ行った。生活をする中で気づいたこと、学んだことがたくさんあった。

学習面について気づいたことを述べる。授業は月曜日から金曜日に実施された。漢字の書きの練習やスピーキングの練習などがあり、どれもみんなで行うようなアクティブな学習が多かった。また、SNS を活用した宿題などを行い、効率がよく便利であり、すごく身にもなった。これからも学んだ中国語の基礎の知識を使い、新たに中国語を学んでいきたい。また、日本以外の国の人たちは、間違いを恥ずべきものだと思っておらず、積極的に発表、質問を行っていて、とても力がついており、日本人に比べほかの国の人は公用語でなくても英語を流暢に話すことができていた。それに誘引され、自分自身もそこに意識を向け生活することで積極性が増し力がついた。学習したことを日常生活に応用し力を伸ばしていた。

生活面について気づいたことを述べる。日本より全体的に物価が安く、電気料金や交通費、食費すべて日本よりも安い。中国の労働力の安さから、全体的な原価が下がり、物価が下がっていると考えた。また、電子マネーや電子・スマホ決済が主流で現金決済は行っていないところも多く、それは、中国のインターネットショッピングのサービスの発展が背景にある。中国では、ネットショッピングで購入したものを自宅以外で受け取る駅のようなものがあちこちのところにあり、自宅外受け取りが発達していた。建物の扉はビニール製のカーテンばかりで、それは、中国人が開けたドアをわざわざ閉める人が少ないという性格的な面から影響しているのだと感じた。街の各地には

レンタサイクルがありいつでもどこでもスマホさえあれば自転車に乗れるため歩く人がとても多かった。また、歩く距離も日本人よりも長いと感じた。また、どこの店の人も中国語を用い、英語は話すことができないため中国語を話さなければ、生活ができないため、最高の学習の場であり、学習を意欲的に行うことができた。

食事面について気づいたことを述べる。持ち帰りのサービスを行っているところが多くほとんどの店で持ち帰るか店で食べるかを聞かれた。時間を大切にしたり、家族との時間を大切にするからだと考えた。日本では、個食、孤食が食に関する問題になっているので、少しでも人と食事をしやすくする工夫は素晴らしいと思った。私自身も帰国をすれば、実践し、食の問題を少しでも解決したいと思った。食事の際は鉄の箸、スプーンを使用し冷たい水はほとんど出なかった。また、今回の留学で中央アジアの国の方と食事をした際、日本国内では学びづらい宗教の違いを明確に認識することができ、より、他人の自分たちとは異なった感覚、倫理観などを再認識し、尊重することができるようになった。異文化理解をできるようになったことは今回の海外研修の一番の成果だ。

環境面について気づいたことを述べる。ごみを捨てる人が多いため、ごみ箱がたくさん設置されていてポイ捨てを防止していた。また、建物の規模が大きく感じた。これは中国と日本の人口の差だと感じた。また、あらゆる木には、根元に白い塗料が塗られており、反射して事故を防止したり、虫を寄せ付けない効果があると教えてもらった。

交通面について気づいたことを述べる。道路にはスピードを落とさせるための段差がありスピードを出す人が多いため事故なども発生しやすいことによる違いだと感じた。バイクの数が多く、静かに動くので、クラクションの数もすごく多かつ

た。地下鉄には、必ず乗車前に荷物検査がありテロ対策もされており、治安の差がここまで対策に反映されるのかと感じた。

留学して間もない時は買い物や授業に慣れることでほかのことを考えることはあまりできなかったが、数日たてば、最高の言語学習、異文化理解の大切さを学ぶ最高の場となり日本国内では学べない知識や経験を身を通じすごく貴重な体験をすることができて、心から参加してよかったと思えるような短期留学だった。



「知識として得るもの、経験から得たもの」

農学部応用生物科学科 3年 橋本祐樹

私はこの春、SUSAP 浙江理工大学プログラムに参加し、3月2日から3月30日までの約1ヶ月間を中国の杭州で過ごした。海外での生活は今回の研修で二度目であったが、1ヶ月という期間は最長であった。長期間の研修は心理的ハードルが高く、中国に出発する直前まで、異国での生活に大きな不安を抱いていた。しかし、長期の研修には、本格的な長期留学の一端を経験できるという点と、それだけ課題発見・解決に費やす時間を潤沢に確保で

きるというメリットがあった。その点を考慮すれば、1ヶ月の研修は自らにとって大きなステップアップになると確信し、今回の研修に参加した。

私がこの研修内で自らに課した課題は二つある。一つ目は知識では得られない実際の中国を体験すること、二つ目は臆せず外国人とコミュニケーションをとり、生活に順応することである。結論から言えば、この二つの課題に関しては十分に達成できたという手応えがある。

まずは一つ目の課題について報告したい。中国に行くのは私にとって初めてだったため、異国の地で粗相がないように…と事前研修などである程度は中国の生活や文化に対して理解を深めたが、やはり現地に赴いてからわかること、前知識と違うことが多々あった。

例えば、トイレトペーパーは流せないの、使用後はくずかごに入れるという点や、交通ルールは車優先という点、料理を食べ残すというのに抵抗がない点…などは事前に調べた知識通りだった。しかし、「中国人は基本早い者勝ち、わざわざ順番待ちなんてしない」や「中国の店員は接客が悪い」などは知識と経験でかなりのギャップがあった。中国人が列を作って屋台に並ぶ光景は何度も目にしたり、割り込みをさせることもなかった。また、接客態度も、そこまで悪くはなく、どちらかというとなんか商売熱心な従業員が多かったように思える。多くの従業員は私が商品を物色していると、すぐに飛んできて、熱心に商品の説明をしだしたり、試食を勧めたりしてきた。これは私が外国人で金を持ってそうだと判断したからでは？と思われるだろうがそうではなく、初めは中国人だと勘違いして、中国語で話しかけてきたので、普段の接客態度だろうと思われる。私が中国語を理解できないと知るや、わざわざ携帯の翻訳機能を駆使し、どうにかしてコミュニケーションを取ろうと躍起になっていた。また、単に商売熱心なだけではなく、

Alipay の使い方を教えてくれたり、笑顔で丁寧に接客したり、非常に愛想がいい印象を受けた。

これらの知識と経験のギャップは、おそらく時代背景の違い、または単純に人の違いによるものだろう。確かに、接客態度においては、地元スーパーの店員は他の店員と談笑したり、客の前でお弁当を食べたりなどかなりフリーダムな印象を受けた。順番待ちに関しては、ローカルな小さい店では、特に列をつくらず、各々が店員の前に進み出て注文していた。どちらかという中高年世代は前知識通り、若い世代はほぼ日本と変わらないスタイルだという印象を受けた。

前から漠然と感じていたことだが、日本のネットでは、中国に対してネガティブな印象を抱くような知識が横行していると思う。それらの中にはもちろん、実際に中国に赴いた上で得た事実も含まれているが、それはほんの側面であるということを理解しなければならない。私が今回の研修で得た中国への印象も、中国のほんの一部に触れて経験したもので、中国のリアルはこうだ！と断定できるものではない。しかし、ネットや本で得られる中国に関しての知識より、実体験はより生々しい中国の現実を教えてくれた。

私が教訓として学んだことは、事実とはリアルな体験でしか得られないということである。何事も自分の目で見て、耳で聞き、口で話し、本物に触れ、自分で判断しなければならない。そして、偏った見方ではなく多面的に物事を見ることが重要である。

二つ目の課題解決については、自分にとってかなりの成長に結びついたと思う。今回 1 ヶ月という長期を中国で過ごすにあたって、異国の地での生活に慣れるということは私にとって大きなテーマであった。

去年参加したインドネシアでのプログラムでは、食事、ホテルは全て現地の大学側が手配してくれ、

スケジュールや活動内容は全て管理されていた。しかし、本プログラムは、食事は自主的に食べたいものを選び、寮の電気代は自分で払い、足りない生活備品は自分で調達し、また、放課後の行動も自分で決めなければならない。本格的な留学生生活を体験できるというわけである。初めは、学食のメニューの意味がわからず、変なものを注文してしまうことや、注文システム自体わからずオロオロしていた。また、寮での生活も、トイレがつまったり、ブレーカーが何度も落ちたり、ハイテクな洗濯機に戸惑ったり、日本に帰りたくなる場面がいくつもあった。これらの生活トラブルに直面して、避けられないのが中国人とのコミュニケーションである。この研修期間内で、寮の管理人の方に何度お世話になったか数えきれないが、彼らにトラブルを報告するときに、中国語は全くわからないし、英語も通じず、翻訳で意思疎通を図るが、方言による違いが全く通じない。仕方がないので、必死に身振り手振りで伝えて、やっと分かってくれるというもどかしい状況が続いた。

しかし、中国人たちとの生活で分かったのは、たとえ中国語がわからずとも、伝える意思さえあれば、お互いにコミュニケーションが取れるという点である。日本人もそうだと思うが、外国人が必死にジェスチャーなどで助けを求めたら、それを簡単に無視できる人は少ない。一生懸命にかを伝えたい、コミュニケーションをとりたいという気持ちがあれば、それを汲み取って、相手も一生懸命理解するために立ち止まって考えてくれるのである。大事なのは、言語の壁を感じてコミュニケーションをとることを恐れないということだ。中国での生活に慣れてきた頃、一人で遠出することがあったが、バス停の場所がわからないというトラブルがあった。その際も、バスを待っていた女性に、ジェスチャーや英語、翻訳を駆使してバス停の場所がわからないことを伝えると、その女性だけで

はなく、他のバス待ちの方からも、正しい場所を教
えてもらえた。わからないこと、聞きたいことがあ
るときは、必ず聞けば答えをもらえるため、どんど
ん中国人とコミュニケーションを取るようになった。
生活様式にも慣れてきて、一人でバスに乗って
好きな場所に行ったり、観光地で出会った中国人
と意気投合などもした。貴重な体験ができたし、外
国人とコミュニケーションを楽しめるという変化
が、この研修内で一番大きな成長だったと思う。

生活自体も、メニューの意味がわかるように
なり、生活必需品を買いに行ったら、自分で行き
たい場所を決め、一人で交通機関を利用するなど、
中国生活が板についたと思う。

1ヶ月の研修期間は、中国に行く前はとてつも
なく長いように感じられたが、毎日が刺激にあふ
れ、新しい発見の連続だったため、体感的にはあっ
という間だった。

今回の大きなステップアップは、外国人とのコ
ミュニケーションを恐らなくなったという点だ
ろう。また、実際に触れてみて、多面的な見方をし、
最終的に自分自身で判断するという点が大事であ
ることを学んだ。国際化が進む現代の日本で、これ
からの外国人との関わり方について、考え直すき
っかけとなった。

もし留学に行くことを迷っている人がいるなら、
ぜひ本プログラムに参加することをお勧めしたい
。



「得られたもの」

経済学部経済学科 2年 入交香帆

私は浙江理工大学プログラムに参加して、実際
に行って見ないと分からない事が沢山あると改め
て感じました。私は、日本以外のアジアには行っ
た事が無かったため、未知でした。また本場の中
国で中国語を学べるという事で、とても楽しみに
していました。実際私は、この留学に行く前は、
ニュースや新聞などの情報から中国に対してマイ
ナスなイメージがあったため、不安な気持ちを抱
えていました。例えば、著作権を無視して、キャ
ラクターの特徴を流用したり、バスや電車の中で
大声で話したりと周りへの影響を考えずに行動す
る人が多い国だと決めつけていました。しかし、
実際に中国で生活してみて、そのマイナスなイメ
ージは中国を外側から見て、一部を切り取った事
によって出来たイメージだと分かりました。確か
に、公共交通機関の中で、大きな声でテレビ電話
をしている乗客を何度か見かけました。日本で同
様の事をした場合、周りの人達から白い目で見ら
れてしまうと思います。しかし、中国では、それ
らは当たり前の事で誰も気にする事はありません
でした。中国人は、自分を隠さずにおおらかに振
る舞う国民性である事に気付きました。また、日
本にはない、子供やお年寄りへの配慮があり、人
の温かさを感じました。様々な出来事、状況を体
験して、日本にいる時の中国、中国人の見方が
180度ガラリと変わりました。この事は、私にと
って大きな収穫となりました。私は、一般的な考
えを持つ事が大事だと思い、自分の意見を押し隠
し、周りに流されてしまう部分がありました。そ
れは間違いである事に気づかされました。自分
の目で見て確かめる事が大切だと思います。また、
一般的な考えが全てではないと分かり、戸惑いと
同時に、これからの自分がどうあるべきかを考え

させられる1カ月となりました。また、本当の中国をもっと知りたいと強く思うようになりました。

中国では、モバイル決済が進んでいて、屋台や寮のコインランドリー、スーパー、大学の学食などの身近な場所で使われていました。違法ではありますが、中には現金支払いが出来ない飲食店もあり、中国のお金はあるのに、物を購入する事が出来ないという変わった体験をしました。レストランなどでは、テーブルにあるQRコードをアプリで読み込んでメニューを見て、注文をして、会計までするというシステムでした。また、カラオケでは、リモコンが無く、携帯のアプリでQRコードを読み取り、曲を探して選び、同様に会計もモバイル決済でした。とてもスムーズにスマートに済ませる事が出来ました。会計だけでは無く、注文までもアプリで出来るとは思っていなかったため、とても驚きました。さらには、バイキング形式の学食では、会計のところに取終えた食べ物のトレイを置き、会計のところに付けられているカメラが食べ物を認識して金額まで出していました。またそれも、携帯のアプリで決済するというシステムでした。人口が多いため、支払いの情報などは膨大な量であると思います。ですが、裁ききれています。これはとてもすごい事だと思いました。モバイル決済やAIがこのように実生活に入り込んでいくのだと思いました。

中国語の授業では、トルクメニスタン、コンゴ、韓国など様々な国からの留学生と一緒に中国語を学びました。私は、初級クラスで授業を受けたので、英語と中国語を交えながらの授業でした。年齢は、18歳から27歳と幅広い年齢でした。クラスメイトはとてもフレンドリーで歳の壁を感じる事はありませんでした。中国語を日本語で教わるのではなく、英語で学べたため、日本では感じる事ができない違和感と楽しさ、達成感が

ありました。クラスメイトの中には、中国語の発音が難しく朝の5時まで勉強をしている人や、会話文のパート分けでの発表でも、全ての会話文を短時間で暗唱する人がいて、とても良い刺激を受けました。それを知ってから、彼女達は本当に中国語を身につけたいのだと知ることが出来、より一層頑張ろうとさらに気を引き締めて授業に臨むことが出来ました。また、基礎の部分をネイティブな先生に教わる事が出来たという貴重な経験をこのままで終わらせるのでは無く、継続して、身につけていきたいと思います。クラスメイトからHSKのサンプルをもらいました。もっとしっかりと勉強して、級を取って、そのクラスメイトに報告したいと思います。

また、私のバディは日本語学科の学生であるため、バディと一緒に日本会話実践の授業に参加させてもらいました。朗読大会が近かったため、授業の内容は、3種類の物語から、一人一つ選び発表者を決めて学校代表を決めるというものでした。一緒に日本語を学んでいて、とても記憶に残る体験でした。バディの授業で使うノートを見せてもらいました。分厚いノートにぎっしりと書いてあって、努力を実際に見る事が出来ました。

私は、気分屋なところがあり、何も考えずに周りに合わせて行動することが多いですが、それよりもしっかりと考えて行動することが大事であると気づかされました。私は、水泳部に所属しています。帰国後、1ヶ月ぶりに練習に臨むと今までは、少しきついくらいでしっかりとこなす事が出来たのに、今では付いて行くのに必死で、タイムも落ちてしまっています。この違いは、しっかりと考えられたメニューをこなし、継続しているからです。1ヶ月でこんなにも差が出てしまって、計画性と継続の大切さを痛感しています。しっかりと考えて、段取りよく行動することで同じ時間を過ごしても、大きな差が生まれてしまうため、

自分の将来のキャリア形成をしっかりと見直す良い機会となりました。



円卓にある QR コード

中国で学んだこと」

経済学部経済学科 1 年 田中友梨香

私が今回、浙江理工大学プログラムに参加した理由は、2 つあります。1 つ目は、留学に興味があったからです。留学はもともと大学に入学する前からしてみたいと思っていました。だから今回は 2 回目の短期留学ですが、本当にたくさんのことを学ぶことができ、長期の留学を考えるきっかけにもなりました。2 つ目は、中国という国に興味があったからです。中国は世界でもトップクラスの経済力を持っています。そこで中国人は実際どのように暮らしているかにもとても興味がありました。また、このプログラムでは 1 ヶ月間中国に滞在できるのでいろいろなことが経験できるだろうと思ひ、ぜひ参加したいと思ひました。

浙江理工大学は中国の浙江省杭州市に位置しています。杭州は中国の中でも特にキャッシュレス化が進んでいます。その理由は、アリババの本社が杭州市にあるためです。アリババは企業間電子商

取引のオンラインマーケットを運営しており、世界最大の流通総額を持っています。そこでの生活はとても新鮮なことが多かったです。何かを買うとき周りの中国人はみんなスマホで支払いをしています。地下鉄の支払いや自動販売機や寮についている洗濯機までもすべてがスマホ決済でした。現金も使えますが現金を使っている中国人はほとんどいませんでした。私のバディは杭州市に来て一度も現金を使っていないと言っていたので、とても驚きました。あるお店では現金を使えないと言われたこともありましたが、中国語を話すことができなかったのものでそこで買い物ができないということがありました。特に飲食店では、スマホで注文して、スマホで支払うというパターンがほとんどでした。また、バイクが電気で走っていることや日本で見たことのない電動の乗り物があり、驚きました。杭州市は、日本よりも発達していると感じることが多々ありました。

このプログラムでは中国語の授業を留学生と一緒に受けます。私は中国語を学んだことがなかったので、初級クラスでした。中国語の授業は、私にとってどんどん新しい知識を学べていることが実感できて、とても楽しかったです。その中で私は中国語の発音が最も難しいと感じました。日本にはない声のトーンや発音があり、これができるようになるまでには時間がかかりました。周りの外国人は漢字が難しいと言っている人が多かったですが、日本人にとって漢字を覚えるのは簡単でした。しかし、1 ヶ月では基本的なことしか学ぶことができませんでした。周りの留学生は半年や 1 年、中国で中国語を勉強すると言っていました。それは中国語を学ぶ環境としてとても羨ましいと思ひました。なぜなら、日常で中国語が耳に入ってくる上、その言語を使わざるを得ない環境にいるからです。私たちは 1 ヶ月で帰らなければならなかったのもので

すが、できることならば、まだ中国で勉強をしたいと思いました。この1ヶ月で学んだ中国語を無駄にしないために、私はこれから中国語の勉強を続けていきたいと思います。

留学生と一緒に授業を受けていると、周りの留学生の授業への参加の積極性を感じました。先生が聞いたことに対して、大きな声で答えたり、音読をする声が大きかったり、発表をするときもみんな積極的に手を挙げていました。これは日本と大きく違うと思いました。しかしその環境の中にと自分も自然と大きな声を出したりすることができたので不思議でした。

また、クラスメイトとも仲良くなることができました。周りにはみんな外国人なのでクラスでの留学生同士の会話は英語でした。そこで自分の英語力の乏しさにも気づかされました。できるだけ簡単な単語や文法を使い、なんとかコミュニケーションはとることができました。英語以外にジェスチャーなども使いました。頑張って伝えようとすると相手も聞いてくれるので、なんとかして伝えるということは大切だと思いました。クラスメイトと1ヶ月で離れなければならないのはとても寂しかったですが、また中国などで会えることを期待したいです。

街に出ると英語が通じないことが多かったです。それは中国語が話せない私にとってはとても困りました。英語で店員さんに聞いても、ほとんどが中国語で返ってくるので私だけではどうしようもない時がありました。そういう時は、日本語のできる中国人のバディなどに助けてもらうことが多かったです。その経験は私が中国語をもっと勉強して話せるようになりたいと思わせてくれました。

私は今回の短期留学を通して、中国についてとてもたくさんを知り、実際に体験することもできました。やはり、実際に自分が経験することはとても大切なことだと思いました。この報告書で

は私の経験したことのほんの一部しか紹介できませんでしたが、この1ヶ月は、毎日新しい発見があり、今までにないくらい充実した1ヶ月だったと思います。私はこのプログラムに参加できて本当に良かったと思います。この経験は私の視野を広げてくれました。これをきっかけに長期留学についてもしっかりと考えていきたいです。そして、この経験を将来に生かしていきたいです。



クラスメイトと一緒に撮った写真

「一ヶ月の短期留学で得たこと」

経済学部経済法学科 2年 高木涼夏

私は、浙江理工大学プログラムに参加して、普段の佐賀大学での学生生活では得られないような多くのものを得ることができたと同時に、今までにない濃い一ヶ月間を過ごすことができた。浙江理工大学へは中国語の学習を主にして出発したが、それ以外にも中国の文化や習慣、中国に住んでいる人の人間性を学ぶいい機会になった。

私は、先進国であるという点で、元々中国に興味があったので中国への短期留学を決意したのであるが、留学に行く前はどちらかと言うとあまり中国に良い印象がなかった。なぜなら、「パクリ」のイメージがあったり、中国の人は、並んでいる列に割り込むような「せっかち」なイメージがあったりしたからだ。その他にも事前研修

のために中国について調べていると、ごみのポイ捨ては当たり前、時間にルーズ、お釣りを投げるなど日本人にとってあまりよくは思わない習慣があると知って、少し気が引けていた。

しかし、いざ自分が現地へ留学に行ってみるとガラリと良いほうにイメージが変わった。バディの学生はとても丁寧に対応してくれたし、よく行く食堂の女の人は私たちの顔を覚えてくれて、食堂へ行くたびに笑顔で迎えてくれた。学生寮では、自分の部屋のブレイカーが急に落ちたり、鍵を部屋の中に忘れて部屋の中に入れなくなってしまったりとさまざまなハプニングが起きたが、そのたびに寮の管理人の男の人がとても優しく対応してくれた。しかも、その管理人さんは日本語も英語も分からないにも関わらず、なんとか私たちのジェスチャーで理解しようとしてくれた。中国の人達は私が思っていた何倍も良い人達であったし、とても思いやりのある人達であった。むしろ、私たち日本人が見習わなければならない点のほうが多いように感じた。

そして、中国の習慣・マナーには驚くことがいくつもあった。地下鉄や新幹線に乗る前に必ず荷物検査があることや、何かを食べながら歩いている人がとても多いこと、スーパーの店員や警備員さんが何かを食べながら作業していること、街中にごみ箱がいくつもあること、バスや地下鉄の中でも電話をしている人がたくさんいること、など他にもたくさんあった。その中でも特に一番驚いたことは、トイレトペーパーの処理の仕方だ。日本では、トイレトペーパーは必ずトイレにあり、トイレに流すことが当たり前であるが、中国では全然違った。トイレトペーパーがあるほうが珍しく、トイレに流すのはタブーで、備え付けてあるごみ箱に捨てなければいけなかった。このように日本と違うことに驚いたが、それが私にはとても新鮮であった。スーパーの店員や警備員については、日本だったら絶対にクレームを言う人がいるだろうが、私は中国のほうが良いと感じた。別に業務を怠っているわけではないし、ここまでラフだと潔くてとても気持ち良いと思ったからだ。日本でも取

り入れていいのではないかとさえ感じた。

主な目的であった中国の学習は、何より発音がとても難しかった。漢字自体は日本でも使うので、少し違うとはいえ書き取りはそこまで難しくはなかったが、問題は読みである「ピンイン」であり、私にとっては聞き取ることも発音することも困難であった。全く中国語の知識のなかった私たちは、留学生初級クラスに入り基礎の基礎から中国語を学んだ。私が入ったクラスはだいたい30人程度のクラスで、リベリア、韓国、コンゴ民主共和国などさまざまな国籍の人たちがおり、授業はすべて英語で行われ、その中で飛び交う言語の種類も多かったが、国境を越えた友達同士でのコミュニケーションも基本全て英語であったので私はそれにとっても戸惑った。なぜなら、英語をほとんど話すことができなかったからである。中学・高校・大学と英語を少なくとも7年以上は学んでいるというのに、いざ外国で英語を使ってコミュニケーションをしようとなるとこうもできないのかと自分自身に失望した。しかし、それと同時に英語力を強化したいという良いモチベーションアップになった。客観的に自分の英語力のなさを知ることができたいい経験になったのである。そして、驚いたことに、クラスでは私たち日本人以外全員自ら積極的に手を挙げて発表していた。佐賀大学の講義では、自ら率先して手を挙げる人がほとんどいないし、先生に質問されても無言、というのが多く見受けられる。積極的に手を挙げている学生がほとんどということが新鮮であり、とても刺激を受けたし、手を挙げていないほうが恥ずかしく感じるという初めての経験であった。だからといって、手を挙げる人全員答えがあっているわけではなく、むしろ間違っている人のほうが多かった。これこそ「失敗を恐れない」ということだと身にしみて感じたし、間違っているもいから手を挙げるというチャレンジ精神が大事だと分かったような気がした。この点については中国留学ならではのいうより、留学生ならではの、というほうが正しいだろう。

このように私は、一ヶ月の短期留学で「大きな経験」

を得ることができた。初めにも書いたように、中国に対するイメージがガラリと変わった。その国のことは現地に行ってからしか分からないのだと実感するいい機会になった。そしてもう一つ、「長期留学への意欲」も得ることができた。これまでの私は、短期留学こそ興味があったものの、長期留学については全くといっていいほど興味がなかった。しかし、このプログラムに参加したことで、一ヶ月という期間の短さを実感し、もっと長く留学してたくさんの経験をし、日本では学べないようなことを外国で学びたいという考えを持つことができた。現に 5 日後の「派遣交換留学生のオンライン申請」に向けて書類を作成しているところである。



留学生クラスでの記念撮影

「中国のイメージが変わった！」

農学部 2 年 田中彩友里

私は 3 月 2 日から約一か月間中国の浙江省杭州市にある浙江理工大学に中国語を学ぶため短期留学をしました。このプログラムでは週に約 20 時間の中国語の授業があり、様々な国の留学生と一緒に学習しました。また、基本的に午後から自由時間となっていたのでバディや友達と出かけたり、食事に行ったりして中国の文化に触れることができました。中国で生活していく中で文化の違

いを感じたり、自分が想像していた中国のイメージと異なったりするものがあり、中国の新たな魅力と日本の誇れることを改めて実感することができました。この留学を通して中国に対するイメージが本当に変わったのでこの魅力を多くの人に知ってほしいと思います。

まず、中国の生活で一番驚いたことはモバイル決済が主流となっていることです。レストランではもちろん、学校の食堂でも QR コードで支払い、現金を利用している人は一人もいませんでした。これは偽札が出回っているためです。私のバディの中にはもう何年も現金を使っていないという人もいることを知り、モバイル決済の普及率に驚くのと同時に、背景としてスマートフォンの普及があると考えました。また、このモバイル決済は銀行カードと直結していてその場で引き落とされ、さらに無料で送金することができるので残高を把握しやすくとても便利です。そのため事前学習で中国人は割り勘をしないと学んだのに対し、実際はモバイル決済を利用して簡単に割り勘を行っていました。これは現金主義の日本と大きく異なる点であり、日本より優れていて便利な点だと思います。

次に中国の街を歩いてみてゴミ箱が多いと感じました。中国人は食べ歩きをする人が多く常に飲み物や食べ物を手に持っていました。だからポイ捨てしないようにゴミ箱が至る所にあるのだと考えます。日本では自分のごみは自分で持ち帰るのが習慣になっているため、街中でゴミ箱がなかなか見当たらずゴミの置き場に困り、ポイ捨てがみられることがあるけれど、中国ではゴミ箱が多いためゴミのポイ捨てがあまり見当たりませんでした。さらに、買い物をした際レジ袋が有料となっていて環境意識が高いと思いました。

中国語の授業を受ける留学生は日本人のほかにもトルクメニスタン、ドイツ、リベリアなど様々な

国から留学している人がいたので、中国人との交流だけでなく国際交流が盛んでした。そのため授業は英語で行われ生徒同士の会話もすべて英語でした。彼らは母国語がありながらも英語を流暢に話すことができるのに対し、私たち日本人は自分の思っていることをなかなか伝えることができず英語力の低さを実感しました。さらに、授業に取り組む姿勢も日本とは全く異なり、積極的に声を出して分からないことがあればその場で質問をしていました。ここでは、間違っても大丈夫という雰囲気があり、むしろ間違えることに意味があると言われてみんな堂々としていました。逆に日本では質問がある人と先生がわざわざ尋ねても、挙手せず、授業終わりに個別で質問をしに行くのが一般的だと思います。そこには日本人の人に迷惑をかけたくないという思いと恥ずかしがり屋な人格が表れていると思いました。私は、受け身で授業に出るのではなく積極的に参加することが大事だと思うので、日本はこのような教育システムを真似すべきだと思いました。

その他に食文化の違いもありました。中国ではお店で冷えた水ではなくお湯又は暖かいお茶が出てきました。これは冷えた水でお腹を壊さないようにするためです。また、食事でごみを出たお皿のスペースに置くのではなくテーブルの上に直接置いていました。これは一度口に入れたものを再びお皿に入れるのは汚く、テーブルを掃除した方が良くと考えているからです。さらに、頼んだ料理をきれいに完食するのではなく少し残すのがマナーであり、実際にほとんどの人がこのような食べ方をしていました。食堂でも残している人が多く見られ残飯がもったいないと感じる一方で、無理に完食せず自分の食べたい量だけ食べられるので良い面もあったと思いました。

生活面でも文化の違いを感じました。例えば、右側通行で歩行者優先ではないので車やバイクが

歩行者のすぐ近くを通ることがあり、危ないと感じることが何度かありました。また、車は自分が通ることを知らせるためにクラクションを鳴らすので日常でクラクションが聞こえるのは当たり前でした。また、中国にはレンタル制度の自転車がどこにでもあり自分の自転車を持ってない人でもモバイル決済ができれば利用できる所以で便利でした。地下鉄では入る際に必ず手荷物検査があり、日本と全く異なる習慣だと思いました。安全のために行っているけれど、人口が多いので手荷物検査のために大行列をつくることもあり大変でした。また、日本の電車内では通話など人に迷惑をかける行為は控えるようになっていますが、中国では電車内で通話をしたり、大音量で動画を見たりしている人がいて文化の違いを感じました。さらに、積極的に高齢者に席を譲る若者が多く見受けられ、人の温かさを感じました。

最後に実際に中国で生活して素晴らしいと感じたことは、人と話す時の姿勢です。中国人同士の会話を見ていると相手の目を見て大きな声で話すという共通点がありました。食堂も朝早くから夜遅くまで開いていて、価格も安く学生が勉強しやすい環境にあると思いました。これは、国からの援助があるからで、教育に対する熱意の差を感じました。

逆に改めて日本の誇れることは大きく分けて3つあります。1つ目は喫煙スペースが設置されていることです。中国では特に喫煙所が決まっていないので歩きたばこやテーマパーク内での喫煙が見られました。やはり、タバコは周囲の人への影響が大きいので日本を見習うべき点だと思いました。2つ目はトイレです。中国ではトイレにトイレットペーパーが設置されていないので、常にポケットティッシュを持ち歩かなければいけませんでした。また、トイレットペーパーを流してはいけないので横に置いてあるゴミ箱に捨てる仕組み

になっていましたが、やはり衛生的に汚いので日本のトイレは優れていると実感しました。3つ目はおもてなしの心です。中国ではお客さんが神という概念がないので店員さんの態度が冷たく、仕事中に携帯を使っている人も見かけました。日本でこのような行為はめったに見られないので貴重な経験ができ、日本の接客サービスの高さを改めて実感しました。

留学を通して多くの文化に触れることができ、中国の良いところをたくさん発見できたので中国に対してマイナスのイメージを持っている人にその良さを伝えていきたいと思いました。



クラスメイトとの記念写真